



年頭のご挨拶

内閣府沖縄総合事務局長
三浦 健太郎

令和6年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

昨年は、社会経済活動のコロナ禍からの正常化が進み、日本経済が回復していく一年となりました。

沖縄においても、全国同様、物価高騰や人手不足の課題などがあり、県内事業者はじめ関係者の皆様にとりましては、厳しい状況が続き、これらの課題は今もなお解消されませんが、主要産業である観光業においては、新型コロナが5類感染症に移行したこともあり、県内各地で大型イベントが開催されるなど、入域観光客数も着実に増加し、月別の国内観光客数では、コロナ禍前と同水準まで回復しております。このような回復基調、明るい兆しを沖縄全体の活性化につなげ、沖縄振興を更に進めていくため、本年も職員一丸となり力を尽くしてまいります。

沖縄における重要な観光資源の一つとなっている首里城は、沖縄の歴史・文化の象徴であることから、県民の皆様からの一日も早い復元が望まれており、現在、令和8年の正殿復元に向けて鋭意整備を進めています。再建工事に当たっては「見せる復興」をテーマとして取り組んでおり、様々な情報発信や復元の様子 of 公開などを通じ、沖縄観光の振興に貢献していきたいと思っております。

沖縄には、もちろん観光の他にも、亜熱帯の地域特性を生かした甘味資源や園芸作物、地理的不利性の影響を受けにくいIT関連産業など、沖縄の更なる飛躍を予感させる様々な可能性があります。一例として、沖縄科学技術大学院大学（OIST）では量子やバイオなど幅広い分野で世界最高水準の教育研究が行われており、研究成果をスタートアップ創出へつなげるための取組も進んでおります。更に、駐留軍用地跡地を利用した沖縄健康医療拠点の整備においては、高度医療研究機能を活用した創薬開発も期待されております。

沖縄は、成長著しいアジアの玄関口としての地理的特性や全国一高い出生率など、大きな優位性と潜在力を有しています。これらを活かして、「強い沖縄経済」を実現し、日本経済成長の牽引役となるよう、沖縄総合事務局としましても、引き続き様々な施策に取り組んでまいります。県民の皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。本年が皆様にとりまして、幸多き良い一年となりますよう心からお祈りし、私の年頭の挨拶とさせていただきます。